私はこの広島研修を通してたくさんのことを学びました。一つは原爆による被害についてです。広島の町は当時にぎやかな町でした。しかし、原爆により、いつも通りの日に、たくさんの命が失なわれました。広島の町は一瞬にして焼け野原になりました。生き残った人たちも放射線による被害や熱線によるやけどなどで、八月六日以降もたくさんの人が亡なっています。当時の様々を表した絵や写真は、「怖い」の一言ではあらわすことができないほどの地ごくのようでした。また、広島から疎開し、別の場所にいて、戦争が終わりかえってくると、親が亡くなっており、戦争こ児となった子供もいました。そして、被爆した当時はなにもなく、元気に過ごしていたが、放射線の影響により、白血病になり苦しんで亡くなった方もいました。原爆の被害は長い時間かけて、たくさんの人々を苦しめたのです。二つ目は、広島のことを伝える大切さについてです。当時は正しい知識を伝えら

20 × 20

れていません。そのため、生き残った被爆者は原爆にあったことを言いたくなかったそうです。また、アメリカにより、何年も原爆について正しく伝えることができませんでした。しかし、今は平和記念公園、平和記念資料館として原爆について学ぶことができます。七十四年という月日が過ぎ、実際に被爆した人は年々少なくなっています。だから、私たち中学生が学び伝えていくことが大切です。

私はこの二つの学んだことから、これからも戦争について学び、伝えていきたいと思います。戦争の被害は広島、長崎だけでなく日本が被害にあい、たくさんの人が亡くなっています。このおそろしい兵器を二度と使わないために、戦争をなくすためにこれから平和について考え、深めていきたいです。